接触場面における日本語母語話者の会話終結部のヒントとなる非言語行動－姿勢についての一考察－
Nonverbal Behavior as a Hint of the Closing Section of Native Japanese Speakers in Contact Situations - A Study on Posture -

中林　由希子
Yukiko Nakabayashi
立命館大学
Ritsumeikan University
y-nakab@fc.ritsumei.ac.jp

概要

本研究は，日本語母語話者が初対面の日本語非母語話者と会話の終結を迎える際，どのような非言語行動をとるのかを明らかにすることを目的とし，本稿では姿勢に着目して分析を行った．その結果，前終結声明となる発話の前後で姿勢を正していくという傾向が観察された．これは，授業終わりに姿勢を正して礼をするという，日本の学校教育が関係しているのではないかと推測する．

キーワード：接触場面，会話の終結部，姿勢

1.　はじめに

日本語非母語話者たちは，日本語母語話者との会話をどう終わらせるかについて頭を悩ませているという（三宅，2014）．それは主に言語面で困っているということだが，コミュニケーションは言語行動と非言語行動が一緒になって行われている（大坊，1998）ので，会話の終結の際も非言語行動を伴っているはずである．

先行研究では，日本語による会話の終結の際の言語行動が明らかにされている．しかし，非言語行動については「沈黙がある」「時計を見る」「体を前後に揺らす」といった指摘はあるものの，特定の非言語行動が会話の終結を示唆する方略として結論付けている研究は少ない．　そこで本研究は，日本語学習者と日本語母語話者の会話を観察し，日本語母語話者が使用する終結部の非言語行動の傾向を調べ，今回はその中の「姿勢」という非言語行動の変化とタイミングについて考察する．

2.　先行研究

2.1　終結部とは

最初に，「終結部とは何か」ということについて言及しておく．本研究における「会話の終結」とは，話題が変わる際の「終結」ではなく，会話参与者間でのすべての会話が終了するところを指す．

そもそも，会話を終わりにするということはただ単に「終わります」という言語行動だけで済むものではない．岡本（1990）は会話の終結について，「会話が終わっても 2 人の関係が終わりではないことを示し，2 人の関係を維持するための必要な部分だと述べている．田中（1982）は，人間関係に悪い影響を出さないために，終結部で何らかの「つくろい」が必要だと述べている．　このように，人間関係の維持に必要な重要な部分である
ため，「終わります」の一言では済まされない．だからこそ，会話の終結部は「会話の終了は，成り行きにまかせるのではなく明確に成し遂げるべきもの（サーサス他 1989）」なのだ．　つまり，終結部は流れにまかせてなんとなく始まるものではなく，意識してしなければならないものなのである．そして，その「明確に成し遂げるべき」会話の終結とは，明確な始まりがある，ある程度の長さを持った部分なのだ．

2.2　終結部の構造

終結部はある程度の長さを持った部分であるため，いくつかの要素から構成される．

Schegloff & Sacks (1973)は，電話でのやり取りを調べ，終結部は「pre-closing」と呼ばれる前終結から始まると述べている．前終結とはこれ以上もしくは新たに話す事柄がないことを示すことである．ただし，会話の一方が pre-closing を始めるのは，「possible pre-closing(終結可能性)」であるにすぎず，会話参加者であるもう一方も終結に同意しなければならない．

もう一人の会話参加者が pre-closing であるこの発言を受けて同意し，新たな話題に移行しないことにより，前終結が完了する．前終結の後には，「terminal exchange」という，「さようなら」などの慣習的なやり取りがなされて，終結部は完了するという．

Clark & French (1981) は，pre-closing (前終結) の次に，会話参与者のお互いの関係を良好に保とうとするやり取りがあるとし，これを「Leave-taking (関係再確認)」と呼んだ．そこには，「さようなら」などの最終交換も含まれる．

岡本 (1991) は日本語母語話者の電話会話を調べ，日本語の終結部を「pre-closing」と「leave-taking」の 2 つに分けた．「pre-closing」は，「Closing 開始のために機能する部分」であるとし，「今まで進行していた会話を中断する働きがあるもの」が構成要素としてあるという．「pre-closing」の方略として，以下の 7 つ挙げている．(1) 総括の表現によりこれ以上会話が必要ないことを示す，(2) 今までの会話の内容をまとめてみる，(3) 会話内容の結論を述べる，(4) 会話の内容や結論から導き出される行動を確認する，(5) 会話の始まりや会話中の話題を呼び戻す，(6)「殺し文句」や「落ち」をつけて会話の調子を変える，(7) 外部事情を示す，の 7 つである．「leave-taking」は，「pre-closing」の次にあり，構成要素として「お互いの関係の再肯定のためのいとまごいの機能があるもの」があるという．方略として，以下の 5 つを挙げている．(1) 将来における再接触の約束，(2) 感謝・おわびの表明又はその繰り返し，(3) お互いの幸や健康を祈る，(4) 伝言，(5) 別れの言葉，である．

本研究では，岡本 (1991) を援用し，pre-closing を「前終結」，Leave-taking を「いとまごい」と呼ぶこととする．また，会話相手の同意がなく「前終結」にはなっていないが，前終結の方略を使っている発話を「前終結声明」として分析していく．

2.3 終結部の言語行動

日本語の終結部では感謝とお詫びの表現を多用することがわかっている (岡本 1991，小野寺 1992)．また，日本語での電話の前終結で，最も多いのは「じゃあ」であり，これが終結に導きたいディスコースマーカー (＝談話標識) である (小野山，1992)．さらに，終結部に見られる「はい」は，終結に向けるための「談話進行の促進」の機能を持つ (熊取谷，1992)．このように「じゃあ」や「はい」は話し手が出す，「もうこれ以上話すことはない」という終結の重要なサイン (談話標識) である．

2.4 終結部の非言語行動

会話の終結部の研究は主に電話での場面を調べたものであるため，研究対象は必然的に言語行動に偏っている．対面場面においても，言語行動を調べているものが主である．非言語行動については，話者交替時や話題の終結時におけるものに焦点が当てられていることが多い．

しかしいくつかの研究では，終結部を示す非言語行動の存在を示している．ザトラウスキー (1998) では，初対面である日本語母語話者 2 名の会話を観察し，話題の終結時には，うなずきの繰り返し，視線を反らす，沈黙が終了要素としてあると指摘している．Linde (1991) は，対面でのビジネス会話を調べ，対面でのミーティングでは，椅子に座った上半身がわずかに前や後ろに傾くという姿勢の動きや，腕時計をあからさまに見たり，車のキーを取り出して手で遊ぶなどという身体的な動きが前終結を示しているのではないかと述べている．中井 (2017) の観察では，終結部に「後ろに寄りかかる」，「後ろにもたれかかる」という記述があることから姿勢の変化という非言語行動が現れたことがわかる．そこで本研究では，日本語母語話者と日本語非母語話者の対面場面を調査して会話終結部のサインとなる日本語母語話者の非言語行動の傾向を明らかにしたい．今回は姿勢の変化のタイミングに注目して調査する．

3. 事例

3.1 研究方法

本研究の対象者は，20 代の女性日本語学習者 (国籍不問) と 40 代から 60 代の女性日本語母語話者である．日本語学習者は，来日 1 年未満で日本語能力試験 N2 (中上級) レベルの留学生とした．ほぼ初対面の日本語学習者と日本語母語話者のペアに，お互いの顔が見えるように対面で着座のうえ，いくつかのテーマを与えて自由に会話をしてもらい，15 分ほど経ったら日本語母語話者は部屋を出るよう指示した．会話は録音・録画して，前終結声明の少し前から，ELAN で会話は会話分析の手法で文字化し，非言語行動は記述して分析した．また，研究対象者に後日フォローアップインタビューを実施した．なお，本研究は 2021 年 6 月から 9 月に実施し，

感染症対策のため，マスクをしたまま会話をしている．

3.2 事例1

日本語母語話者（C） 60代
日本語非母語話者（H） 20代 ベトナム 来日9か月

事例1のCとHは，お互いがお互いの話を待っているように会話が進んでおり，全体的に大きな盛り上がりはなかったが，会話は約16分ほど続けられている．二人は日本の夏は暑いという話から，下記の会話（図1）に続く．

Cの会話中の姿勢は，図2左の写真で見えるように，手は膝の上でいすに深く腰掛け，背中も背もたれにつけ，少し猫背のような姿勢で座っていた．それが，話題がひと段落し「°そっか°」という発話とともに背もたれから背中は離れ，上半身が低い位置から高い位置へと持ち上げられた（図2中央写真）．この上半身の状態が姿勢を正しく見せている．そして「じゃあ:ちょっと今日はあれですね」という発話の「あれですね」のあたりから後方の窓の外に視線を向けるため体の向きが変わり，4秒ほどで体がHに向き直った際も，背筋をまっすぐに伸ばしたままの姿勢であった（図3左写真）．そのまま3秒近く背中がまっすぐであったが，前終結が始まるころから体が前後に動いていることを観察した．

＜事例1＞

01 H	冷房	
02 C	う:ん	
03 H	も使っ(.)てるし:ちょっとh家賃が:	
04 C	家賃が(.)電気代	
05	(1.1)	
06 H	電気代がたぶん増やしていますよ	
07	(1.0)	
08 C→	°そっか:°	
09	(1.0)	
10 C	じゃあ:ちょっと今日はあれですね(0.6)お天気悪いけど ((C:前方の掛け時計を見る)) ((C:後方の窓の方を振り返る))	*【前終結声明】*
11	(0.9)	
12 C→	ちょっと悪いかもしれないですけどねh ((C:Hを見る))	
13	(0.6) ((C:テーブル上のICレコーダーをのぞきこむ))	
14 C	°う::ん°	
15	(0.7)	
16 C	じゃあそしたら(1.0)そろそろ(0.8)じゃあこの辺で ((C:Cの左にあるカバンの中を見る))	*【前終結】*
17	(0.6)うん(0.7)失礼します(0.4)うん ((C:Hを見て、少し頭を下げる))	
18 H	はい	

図1 事例1（CとH）の会話

Cの発話	゜そっか゜		じゃあ：ちょっと今日は	あれですね(0.6)お天気悪いけど
Cの手の位置	膝の上			
Cの体の動き	上半身が持ち上がる	**背中が伸ばされたまま**		**上半身を後ろにひねる**

図２　Ｈの姿勢の変化１

Cの発話	悪いかもしれないですけどねh		゜う:::ん゜	じゃあそしたら
Cの手の位置	足をさするように前後に動く	膝の上		
Cの体の動き	**背中が伸びた姿勢のまま**			**体が前後に動く**

図３　Ｈの姿勢の変化２

事例 1 では, 前終結声明とほぼ同時に上半身がまっすぐになり, そのまま前終結に進んだことにより, 会話を終わろうとしたときから, 日本語母語話者は姿勢を正していたことが観察された.

3.3　事例２

日本語母語話者（D）　50 代

日本語非母語話者（I）　20 代　中国　来日 10 か月

事例 2 の二人の会話は約 11 分であったが, 途切れることなく, テンポよく会話が進んでいた. 以下に示す会話の直前, Ｉは自分の国である中国と日本では, ドラマ制作におけるテーマに関する考え方が違うことを話し, それに対する自分の簡単な意見を D に伝えていた（図 4）.

Ｄは会話中, 腕をテーブルに乗せ, その腕で体を支えているような姿勢だった（図 5 左写真）. それが話題終了時の「へえそうなんですか」という発話から前終結声明である「おもしろい」という発話が始まるまでに上半身が伸びあがり（図 5 中央写真）,「おもしろい」の発話とともに上半身が前に傾けられた（図 5 右写真）ことが観察された. このことからＤは前終結声明の前に姿勢を正していることがわかる.

図 6 では, Ｉの発話の直後, Ｄはそれまでテーブルに乗せていた腕（図 6 左写真）を再びテーブルから下ろし, お礼を言いながら 1 秒ほど体を前後に動かしていた（図 6 中央写真）が, お礼を言い終わるころ背筋をまっすぐ伸ばした状態（図 6 右写真）の様子が観察された. 図 6 からは, Ｄはいとまごいの発話中に姿勢を正したことが分かった.

その後, 前のめりの姿勢(図 7 左写真)でＩへ向け発話があった. Ｉへのメッセージの間, 徐々に上半身を後ろに傾けていき, 垂直の姿勢（図 7 右写真）になった. その姿勢を保ったまま, Ｉの発話の後Ｄもお礼の言葉を発している. D の姿勢の変化をまとめると, 最初の前終結声明の前に姿勢を正し, 次にお礼を言いながら（いとまごいをしながら）姿勢を正し, そしてＩへのメッセージを言いながら（いとまごいをしながら）また姿勢を正していったということになる.

＜事例 2＞

01 D	日本でも人によって違うと思うから	
02	(0.5)	
03 D→	うん(.)へえそうなんですか	
04	(1.0)	
05 D	おもしろい(.)I さんはすごく(.)あのお話上手です	*【前終結声明】*
06	(0.2)	
07 I	あ(.)そうで[すか	
08 D	[うん(.)[おもしろいhh	
09 I	[ありがとうございます	
10	(0.3)	
11 D	ありが h とう h ございます(.)すごいですね ((D:テーブル上の携帯を見る))	
12	(0.4)	
13 D	35 分でね:お話終わらなきゃいけないんだって ((D:テーブル上の携帯を見る)) ((D:テーブル上の指示の紙を見る))	*【前終結】*
14	(1.5)	
15 D	だから(.)もうそろそろ終わりですね今 34 分だから ((D:携帯電話を I に見せる)) ((D:携帯をテーブルに置く))	
16 I	はい	
17 D→	ありがとうございます(.)短い(0.4)すごく ((D:手を膝の上に置いて軽くお辞儀))	*【いとまごい】*
18	(0.7)短い時間	
19	(0.2)	
20 I	°はい°	
21 D→	ですが(.)林さんの話が(0.4)おもしろいからもっと聞きたくなりました	
22	(0.2)	
23 I	はいありがとうございます	

図 4　事例 2（D と I）の会話

Dの発話	へえそうなんですか		おもしろい(.)Iさんはすごく	
Dの手の動き	**腕をテーブル下に下す**		**腕をテーブルの上に戻す**	
Dの体の動きの状態	上半身が後ろへ	**背筋が伸びた状態**	上半身を少し前に倒す	前に少し倒れた状態

図 5　D の姿勢の変化 1

Dの発話		ありがとうございます(.)短い(0.4)すごく	
Iの発話	はい		
Dの手の動き	移動中	**腕をテーブル下に下ろす**	**手を胸の前で合わせる**
Dの体の動き	背筋が伸びた状態	**前後に動く**	**背筋が伸びた状態**

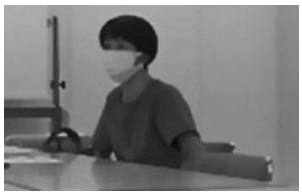

図 6　D の姿勢の変化 2

Dの発話	短い時間		ですが(.)Iさんの話が(0.4)おもしろいから	もっと聞きたくなりました	
Iの発話		°はい°			はいありがとうございました
Dの体の動きの状態	**前へ**	**前のめりの状態**		**後ろへ**	**背筋が伸びた状態**

図７　D の姿勢の変化３

3.4　事例３

日本語母語話者（E）　50 代女性

日本語非母語話者（J）　20 代　中国　来日 9 か月

事例 3 の E と J は 16 分ほど話をしていた. 観察する終結部は約 50 秒の会話である. その会話中，二人は USJ（ユニバーサルスタジオジャパン）にハリーポッターやスーパーマリオのアトラクションがあることを話し，J が中国ではハリーポッターのゲームが非常に人気であることを E に伝え, それに対して E が J に返答する以下の会話に続く（図 8）.

図 9 は，話題終了時の E の姿勢の変化を示している. E は会話中，テーブルに肘をついて体を支える姿勢でいたため，背中が丸くなっている（図 9 左写真）. しかし，話題終了の発話とともに背筋が伸び始め，支点であった肘を外した（図 9 中央写真）ため，自立しようと上半身が後ろに傾き始める（図 9 右写真）.

＜事例 3＞

01 E→	へ::::さすがやわさすがハリーポッターだわ	
02 J	はいhh	
03	(0.3)	
04 E	そっか:	
05	(0.7)	
06 E→	じゃあ私も(.)私まだ行ったことないから:	*【前終結声明】*
	USJ のハリーポッターに(0.5)	
07	コロナが終わったらハリーポッター行こうと思います	
08	(0.3)	
09 J	はい	
10	(0.2)	
11 E	マリオもついでに見ます	
12 J	はい	
13 E	hh	
14	(0.7)	
15 E	.hhh は::い(0.4) じゃああありがとうございました(.)	*【いとまごい】*
16	何かあの(1.0)なんかあんまり(1.0)時間も時間なので	*【前終結】*
	((E:E の右の掛け時計を見る))	
17	(0.4)	
18 J	はい	

図８　事例３（E と J）の会話

Eの発話	へ::::さすがやわさすがハリーポッターだわ				そっか:
Jの発話				はいh	
Eの手の動き	**肘をつく**	**肘を下す**	**ペンをケースに戻す**		**腕をテーブルにつける**
Eの体の動き	**前に倒れた姿勢**	**上半身が持ち上がる**	**体を前後に揺らす**		

図 9　E の姿勢の変化 1

Eの発話	じゃあ私も(.)私まだ行ったことないから：USJのハリーポッターに			
Eの手の動き	**両手を浮かせる**	**両手を振る**	**椅子の座面のふちに両手をつく**	**服のすそを持つ**
Eの体の動き	**後ろへ倒れる**	**少し後ろへ倒れた姿勢**	**上下、前後に体が動く**	**体を後ろへ倒す**

図 10　E の姿勢の変化 2

Eの発話	コロナが終わったらハリーポッター行こうと思います	
Jの発話		はい
Eの手の動き	**膝の上に置く**	
Eの体の動き	**背筋が伸びた状態**	

図 11　E の姿勢の変化 3

図 10 では，前終結声明とともに，両手を浮かせて右手で左手を触ったり (図 10 左写真)，両手を振ったり，体を前後させたり座りなおすために体を浮かせたり (図 10 右写真)，カーディガンを触る等の手の動きが活発になるなど，上半身が忙しく動いている様子が観察できる.

手や体の動きが活発だった図 9，図 10 から一転し，図 11 で示されているように，前終結声明の後半では姿勢が正された状態が続いていた. 終結部における E の姿勢は，話題終了時と前終結声明の発話の後半で正されたことがわかった.

4. 考察

日本語母語話者のC，D，Eは最初の前終結の声明の前後から腕をテーブルから下ろしたり，背筋を伸ばしたりするなど姿勢が正されていた． 図3,図6,図9,図10 で観察されたような,終結部において手や体を動かす様子は,体を前後に動かしたり,車のカギを手で弄って遊んだりするという身体的な動きが前終結を表すというLinde（1991）の指摘通りになっている．本調査の日本語母語話者は共通して，前終結声明の前後に姿勢が正される傾向があった.座っている状態での「姿勢を正す」という非言語行動には2つの特徴がある.1つは肘や腕， 背もたれ等で体を支えることなく， 自立して体を起こしていること，もう 1 つは背筋が伸びていることである.「姿勢を正す」とは，この2つの特徴がある状態，つまり肘や腕をついて体を支えている状態や猫背になっている状態から，自立して体をまっすぐにし， 背筋を伸ばすことを指すといえる.これらの「姿勢を正す」という行動を，日本語母語話者たちは終結部の始まり，つまり前終結声明の前後で行っていた。

姿勢を正すことについて、フォローアップインタビューで日本語母語話者3名に聞いたところ， 3名とも無意識であったと述べた． しかし,「よく考えると， 姿勢を正す行為は今まで学校教育で受けた授業終わりの儀式を無意識のうちにしているのではないか」と 3 名ともが振り返っていた.授業終わりの儀式とは，日本の多くの学校で行われている，授業が終わる際に姿勢を正して礼をする挨拶のことである.ブゥル(2001)は「非言語行動は社会的文脈に影響される」と述べている。このことから終結部近くで日本語母語話者が姿勢を正すという非言語行動は，日本の学校教育での習慣が姿勢に現れた結果だという一つの可能性を指摘したい。

5. まとめと今後の課題

本研究は， 日本語母語話者が初対面の日本語非母語話者と会話の終結を迎える際， どのようなタイミングで姿勢に変化が表れるかを調査したものである.終結部の姿勢の変化とタイミングを調べるため，日本語母語話者と日本語非母語話者に対面,着座で 15 分話してもらい,その様子を録音・録画し,分析した.その結果,日本語母語話者は,前終結声明となる発話の前後で姿勢を正していくという傾向が観察された.これは,日本の学校教育が大きく関係していると推測する.

しかし本研究は,実験の場で行われたものであるため,実際にこのような姿勢の変化が表れるかは調査できていない.また,日本語母語話者同士や日本語非母語話者同士でも姿勢は正されるのか,性別の組み合わせ・親疎関係・社会的地位によって姿勢の変化やタイミングがどう異なるのかについては今後の課題としたい.

参照文献

[1] 岡本能里子，(1990)“電話による会話終結の研究”,日本語教育, 72, pp.145-159.

[2] 岡本能里子，(1991)“会話終結の談話分析”，東京国際大学論叢, 44, pp.117-133.

[3] 小野寺典子，(1992) “エスノメソドロジーにおける電話会話の研究と日本語データへの応用”，日本語学，vol.11，No.9, pp.26-38.

[4] 熊取谷哲夫，(1992) “電話会話の開始と終結における「はい」と「もしもし」と「じゃ」の談話分析”，日本語学，Vol.11，No.9, pp.14-25.

[5] サーサス，G･H. ガーフィンケル･H. サックス･E. シェグロフ，(1989)日常性の解剖学－知と会話―，北澤裕･西阪仰訳. 東京:マルジュ社.

[6] ザトラウスキー，ポリー，(1998)“初対面の会話における話題を作り上げる言語 非言語行動の分析”,社会言語科学会第 2 回研究大会予稿集, pp.23-28.

[7] 大坊郁夫，(1998) しぐさのコミュニケーション 人は親しみをどう伝えあうのか，東京:サイエンス社.

[8] 田中望(1982)“「別れ」の言語行動様式”，言語生活，363, pp.38-46.

[9] 中井陽子，(2017) “誘いの会話の構造展開における駆け引きの分析―日本語母語話者同士の断りのロールプレイとフォローアップ･インタビューをもとに―”，東京外国語大学論集 95, pp.105-125.

[10] ブゥル，P，(2001) 姿勢としぐさの心理学 市河淳章･高橋超編訳. 飯塚雄一･大坊郁夫訳. 京都:北大路書房.

[11] 三宅和子，(2014)“ロールプレイにおける学習者のモニタリング―モニタリングの実態から教育を考える―”，日本文学文化, 13, pp.1-16.

[12] Clark, H. H. and J. W. French, (1981) “Telephone goodbyes”, *Language in Society* , Vol.10, No.1, pp.1-19.

[13] Linde. C，(1991)“What’s next? The social and technological management of meetings”， *Pragmatics,* Vol.1，No.3, pp.297-317.

[14] Schegloff, E.A., & H. Sacks, (1973) “Opening up Closings”, *Semiotica* , 8,pp. 239-327.